

# 活動報告書

報告者氏名：梶原昭夫

所属：大分県立南石垣支援学校

記録日：2013年 2月18日

## 【対象児（群）の情報】

- ・学年 中学部3年 6名（ここでは男児1名：Aについて記述する）
- ・障害名 知的障がい、広汎性発達障がい
- ・障害と困難の内容

文字の読み書きが困難で、平仮名や数字も読み間違ふことが多く、書き写すことも難しい。特に文章や時刻表などの中から、必要な情報を読み取ることができない。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい

「電車に乗って、バイキングレストランへ行こう」という単元での生活単元学習（校外学習）において、一人で電車に乗って目的の駅まで行くことを目標とした。改札はICカードを利用するため、次の2つを課題とした。①電光掲示板から乗る電車を決め、のりば番号を見つける。②のりばを示す案内表示を頼りにホームまで行き電車を待つ。

必要な数字を読み取ることや一人で行動することに困難を抱えるが、iPadを使って学習することで、成功体験を積み重ね、実際の駅でも「できた」喜びを味わわせることで自信につなげていきたい。

- ・実施期間

2月7日、8日、13日、14日 15日

- ・実施者

梶原昭夫

- ・実施者と対象児の関係

担任

## 【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・対象児（群）の事前の状況

休日は映画や買い物などで大分まで出かけることが多いが、保護者と共に自家用車で行動することがほとんどである。失敗することへの抵抗感が強く、大人と一緒に行動することへのこだわりもあり、一人で行動することへの不安も強かった。しかし、居住地域内のバス路線にICカードが導入されたことをきっかけに、バスの利用の学習を始め、現在は路線バスをつかって一人で登下校している。同じバス停に来る異路線のバスを路線番号の表示を見て判断できるようになったが、時刻表やICカードの料金や残高表示など、複数の数字が並ぶと読み取ることができなくなる。

これまでの校外学習でも、電車に乗って大分駅まで2度行き、京都への修学旅行でも多くの駅を体験しているが、のりば表示の見方は全く理解できていなかった。

今回の校外学習では、目的地を「バイキングレストラン」という本人がわかりやすく意欲が高まる場所にし、課題意識を電車の乗り方に集中させて学習に取り組んだ。

- ・活動の具体的内容

当日の行程をKeynoteで示し、appleTVを使ってTV画面に映して伝えた。アニメーション機能を使いながら、自分たちのキャラクターが電車に乗ったり、食事をしたりするような表現にした。より具体的にイメージできるようにすることで見通しを持たせ、電車に乗るという課題に集中できるようにした。



同様に、電車の乗り方も Keynote で示した。また生徒たちの iPad には、pdf 変換したものを iBooks で表示し、簡単な操作で拡大したり振り返ったりしながら学習した。

Keynote で作成した「電車の乗り方」をもとに、電光掲示板の表示から、乗る電車の時刻とのりばを答えるテスト問題を作成した。これを紙に印刷してプリントにした物を



生徒たちに配布した。生徒たちは TV 画面を見ながら手がかりとなる箇所○印を書き込んで問題を解いた。実際に手がかりを追いながら○印を書き込むことで、電光掲示板の仕組みを理解した生徒もいた。

A の場合、必要な数字を読み取ることが困難で、手がかりとなる漢字と色を頼りに○印をつけても、数字を読んで書き写すことが難しかった。このプリントは「別府駅→大分駅」「大分駅→別府駅」をそれぞれ4試行行うものであったが、Aは全て答えることができず、教師と一緒に○を付ける位置を確認しながら問題を解いた。

「読む」「書く」という行為がAにとって負荷になり、仕組みを理解する妨げになったことから、「テスト」を iPad の画面上でできるように改良した。正解ののりば番号の写真をタップすると、電車が現れ次の問題へと進めるが、画面の他の部分をタップすると「やり直し画面」になり、正解しない限り次の問題に進めないようにした。これをプリント同様8試行でクリアできるようにした。それでも8試行全てでやり直すことになったが、プリントに比べると教師の指示や手助けを必要とせず、最後の画面までやり通すことができた。



つぎに、校内に設置した模擬駅で、powerpoint で作成した画面をプロジェクターを使って、実物に近い高さや大きさに写した「電光掲示板」を見て、校舎内に設置した「のりば」まで行く学習を行った。

手がかりとなる漢字や数字が手元から離れたことで判別することが難しく、また同じ数字ののりば案内表示を見つけるという新たな行為が加わったこともあり、正解ののりばまで行くことができなかった。



そこで、再び iPad の画面上でテスト問題を行い、やり直しの「赤画面」がでなくなるまで繰り返し、自信をつけてから模擬駅での学習にもどった。ただし、正答率が5割を超えず、正解ののりばに行くことができた時にも、数字を言い間違ふこともあり、確実にのりばまで行くことができなかった。さらに、iPad の学習と模擬駅での学習を3回繰り返して、初めて模擬駅で8試行とも、のりばを見つけることができた。

・対象児（群）の事後の変化

iPad の画面上でテスト問題を繰り返すうちに、「方面」「普通」「のりば」など手がかりとなる箇所を見つけるたびに、自分の手でOKサインを作り確かめていた。やがて模擬駅の電光掲示板でも、指さしとOKサインを作りながら、のりばを探し当てるようになった。iPad 画面上の学習と模擬駅での学習を繰り返す中で、電光掲示板とのりばの仕組みを確実に理解したようだ。

校外学習当日も、自分用の iPad を持参し、駅まで向かうバスの中で、2度 iPad の画面上でテスト問題を行っていた。「別府駅→大分駅」「大分駅→別府駅」ともに改札から電車に乗ることまで、教師や友だちから離れ一人で言うことができた。また「電車の乗り方（ひとりで電車にのろう）」では、車内の表示「まもなく○○」を見ることを示していたことから、その表示をずっと注意しながら目的の駅で降りることができた。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

今回の教材は Keynote と powerpoint で作成したが、生徒への指導はプリントと i P a d 画面の 2 通りで行った。問題用紙に簡単に書き込むことができるプリントで効果が見られた生徒もいたが、A では、i P a d 画面による学習において大きな成果が見られた。「書く」という行為がないこともあるが、すぐに正答と誤答が視覚的にわかり、自分でやり直しができること、自分の意思で何度も繰り返し学習できることが利点として挙げられる。また、プリントでは解答を書き込むため、新しいプリントを教師が準備しないと繰り返し学習することができない。課題解決に向かって主体的に取り組むことが i P a d を使うことでできた。他の生徒でも、プリント学習の後に、i P a d を使って繰り返し学習することで定着を図ることができた。

### ・エビデンス（具体的数値など）

本授業では、プリントと i P a d 画面上の学習を比較するものではなかったが、i P a d 画面上の学習によって、実際の駅での電光掲示板を読み取って電車に乗ることができた。学習の過程は、活動の具体的内容に示した通りである。

### ・その他エピソード（画像などを含めて）

校外学習後の週末、A は大分へ出かけた。日頃は保護者とともに自家用車で出かけるが、保護者の協力もあり電車で出かけた。学校で使ったものと同じ i P a d を持って行くと、電光掲示板を見てのりばまで行くことができたそうだ。保護者と行動する時は特に依存心が強く、自分でしないことが多いが、学校で学習した直後でもあり、i P a d を持つことで学校と同じ支援を得られたことから、保護者の前でもやってみたいという意欲につながったと思われる。まだ一人で行くという自信は持っていないが、成功経験を重ねながら自立へと導いていきたい。

